

時事新報

第三千百十號
明治廿四年八月十八日
舊曆辛卯七月十四日
日出午前五時三十分
入午後五時三十六分
月出午前五時三十六分
入午後五時三十六分
漏牛後三時二十二分四十五秒
午後三時二十五分
(丙子)

(西曆一千八百九十一
年)

ハング地方を占領したりと云へる報知當地に達したり去る頃より暹羅の境界に於ける佛軍の運動は人をして不穏の感情を起さしめ當地方の佛字新聞はメー・コン河の全流域は正しく安南及びカムボジヤに屬するものなりと熱心に主張せり」とあり此報は果して事實あるや否や未だ知るに由あしと雖ども佛兵の占領したりと云ふレーフレットアラカン地方は既に三月のうちに馬ニモ

訪問するほど頗りに計畫し居る
は同縣下の一問題であるべしと
○經費を出さるる撰舉人 東京
年三月頃に當り所得税四等以上
て之を撰舉せしめたるものある
經費を徵收するには九月現在の
年三月頃に當り所得税四等以上

時事新報 定價
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物
價報告あり其代價遞送料廣告特輯は左の如し
一枚三錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三
圓〇一箇年前金六圓〇月曜日休刊
○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ
遞送料ヲ申受け
時事新報廣告特輯(前金)

本社へ寄稿に付
行 二 付 十三 銭 十一 銭 十銭五厘

各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
壠塞するより各社同一の記事を掲ぐるふと寡からず獨
り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社
に通信を依頼せすと雖も世間往々此事を知らずして通
信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信
ずる方多きが如し爲めに行進ひを生じたる場合も寡か
らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
本社に向け發送あらんとを請ふ

官立學校撲滅
近來教育社會に私立學校撲滅云々の言を聞くふと屢々之を聞かねばならぬ。撲滅とは如何にも殺風景なる激語にして我輩の筆に堪へ難き所なれども暫く時流に倣ふて爰に官立學校撲滅を一言せんに抑も今度の私立學校撲滅策あるものは各府縣の尋常中學を改良して其卒業生をば無試験にて直ちに高等中學に入學せしむべしとの説専ら當局者間に行はれ既に内決したる由聞せしより扱は從來高等中學の受験豫備校として設立したる府下の各私立學校を撲滅し當局者が獨り自家の手中ある尋常中學を廢止昌あらしめんとの趣向あらん左りとは私癖の甚だしさるものなりとて俄に物論を醸したるが如し右受験豫備學校の存廢盛衰は我輩の甚だ重きを顧みる所あれば事々詳しく講論するにも及ばざれども尋常中學より高等中學に通じ高等中學より大學に通するは我教育の制度上然らざるを得ざる所あるが故に今日の如く各府縣尋常中學卒業生の學力に乏しくして高等中學の入學に堪へざるは遺憾の次第なり之を改良して一貫の工風あかる可ならずとは實に當局者の精神にして又撲滅云々の骨子あらん歎銘に思ふに其所謂教育の制度上とは何にと意味するや當局者が心中に描きたる雰形にして初め之を設定するや着々順を追ふて秩序整然たるものなりしかどもイヨ／＼實驗の結果を吟味すれば府縣尋常中學の卒業生は高等中學の入學に堪へずして實際の學力は遙に易けれども各府縣にては之を求むるに自ら高價を要するが故に私立豫備校生徒に及ばずといふ、當局者の觀に於けるに豫備校と尋常中學との間に斯る反對の變相を來たすものなり宜しく良教師とを雇ひ又教科用具とも整全して制度の主意に適はしむべしとの言なり

雜

報

○佛兵遼遠の領地を占領せし報道 英國スタンダード
新聞に掲げたる遼遠の首都バンコック六月三十日發の
電報に「佛國の軍兵はメークン河の東なるルアン プラ

に和こゝとの會と兩二年前より同市議會の有志者間で行はれたる處なりしが近來前橋の日に繁盛に赴き群衆の富を奪ひ去る傾きあるより高崎の有志者は益々移歴問して移轉の要を説き又は態々上京して内務大臣と

も選舉の時は何人も皆候補者にて
票を得るの見込みあり(但し自
の間に毫も優劣ありと思はず)
て投票せんとするものあれば
も容易に候補者は定めらるゝこと
も容易

官立學校漢滅

佛蘭西人